

キャベツ (タキイ種苗初秋)

情報提供：神奈川県平塚市在住 K様 (62276) 2014年10月26日

無農薬栽培の最大の敵である虫害が減少しました。さらに収穫までの日数が例年より3日早まりました。結球内部がやわらかく仕上がりました。

特長

- 未使用時に比べて虫害が減少し、省力化しました。
- 成長が早く、すみやかに結球し、内部のやわらかさが増しました。
- 明らかに葉の色が濃くなり、常に葉が立ち、例年のように夏バテで下垂することがありませんでした。

栽培地状況

- 畑は、神奈川県の中央部に位置し、黒ボク土と赤土の混合土壌です。
- 土壌は平塚市でトップクラスの「野菜栽培に適した土」とであると評価(神奈川県農業試験場調べ)をいただき、毎年、牛糞堆肥を10アール当り2t、落ち葉(広葉樹)を軽トラ10杯(1~1.5t)入れています。
- 30アールの畑の内、キャベツ(初秋)を10アール栽培しています。
- 年間を通して長ネギ、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーを栽培しています。

施用状況

<2014年~> 10アール当たり

	日付	希釈倍率	施用量
種まき時期	7/ 24		
土壌灌水	8/ 1	1000倍	200ℓ
定植時期	8/ 25~26		
作物への散布	8/ 26	1000倍	200ℓ
	9/ 9		
	9/ 24		
	10/ 8	500倍	100ℓ
収穫時期	10/ 14~11月中		

生産者の声

- お客様から「やわらかく、おいしい」という声を頂いています。
- 通常の栽培法と比べ、葉が立ち、1株がコンパクトにまとまり、密植栽培に利用可能ではないかと考えます。
- 定植後の成長が早い為、外葉が地面を覆うのが早く、雑草を抑える力が強いと感じています。
- 外葉は、害虫が少なくなった反面、結球した玉の中に入り込んだ虫には効果が薄かったです。
- 病気が発生した箇所がありましたが、あまり広がらなかったように感じます。
- 展着剤は必要ないと言われてはいましたが、10月8日に展着剤入りで散布した結果、結球内部に黒いシミのようなものが出来たものがあり、特にやわらかい品種には展着剤を入れないほうが良いことを確認しました。
- 10アールで4400株栽培し、収量は4tでした。収穫可能な株は約95%(4182株)で、約5%は虫害で収穫できませんでした。又、完璧な美品は約62%(2726株)でした。
- 肥料は、元肥で牛糞堆肥2t、追肥でERボカシ1t、鶏糞300kgを使用しました。
- 土壌改良が進めば、虫害がさらに減るのではないかと期待しています。

◆ご使用にあたってのポイント

- ・ 今回の結果はスーパーERを使用する事により、肥料の分解と植物の活性が促進され、栄養分の吸収力が高まったと考えられます。その為、好結果が出た後の土壌中の肥料分は多量に消費されておりますので、来年度の土壌への施肥は充分に行う必要があります。
- ・ スーパーERの過剰使用は一時的に良い結果が現れますが、後に何らかの弊害が出る可能性もありますので、施用方法に従い使用をしてください。
- ・ スーパーERの使用で、土壌の微生物の環境が整い、微生物が定着することにより、地温が上昇し作物の生長促進がみられる場合があります。
- ・ これらの現象は、農薬等の作用とは全く異なるもので土壌環境等の調整であり、スーパーERは農薬でも特定農薬でもありません。